

ホームページのご案内



<http://www.ohashi.co.jp/>

株主メモ

決算期	毎年3月31日
配当金受領 株主確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月中
基準日	毎年3月31日および中間配当金の支払を行うときは9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して停止いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都杉並区和泉2丁目8番4号 証券代行事務センター(〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)3323-7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本支店



株式会社オーハシテクニカ

(証券コード:7628)

〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
TEL.03-5321-3411(代)



この事業報告書は、エコマーク認定の古紙配合率100%の再生紙を使用し、アロマフリータイプ大豆油インキで印刷されています。

第52期 事業報告書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

SOLUTION PROVIDER





代表取締役社長
古尾谷 健

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は当社の事業経営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 当期のわが国経済は、前半は長引く不況に加え、不安定な国際経済の影響を受けて景気が低迷いたしました。後半からは輸出の回復や設備投資機運の高まりなどにより緩やかな景気回復の兆しが見られるようになりました。
 海外では、米国経済は減税と低金利政策により消費が好調に持続し、雇用情勢も改善したことなどから景気拡大が明らかになってまいりました。こうした米国経済の好調さがアセアン各国や欧州経済にもよい影響を与えているものと思われまます。
 当社の主力市場であります自動車業界におきましては、輸出の好調などを背景に国内生産台数が前年度に引き続き1千万台の大幅な伸びを果たし、さらに情報通信業界におきましては携帯電話機の出荷台数が大幅な伸びを見せました。
 このような状況下、全社を挙げて経営基盤の強化と業績の拡大に取り組んでまいりました結果、期初の予想を上回る業績を確保することができました。
 引き続き業績を安定的に拡大させていくため、当社では全社員一丸となって、地球環境の改善に貢献することを目的とした「開発提案型営業」を目指してまいります。
 株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2004年6月

CONTENTS

- ごあいさつ 01
- 連結財務ハイライト 02
- トップインタビュー 03
- 事業戦略 04
- クローズアップ 05
- 連結財務諸表の要旨 07
- 単体財務諸表の要旨 08
- 株式の状況 09
- 会社概要 10



経営ビジョン

グループの存続と繁栄を目指し、生産財要素部品等を対象とする環境を重視した「開発提案型企業」として、世界のお客様に信頼されるオーハシテクニカを実現する。

	第48期 (自平成11年4月1日 至平成12年3月31日)	第49期 (自平成12年4月1日 至平成13年3月31日)	第50期 (自平成13年4月1日 至平成14年3月31日)	第51期 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	第52期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
売上高(百万円)	21,831	24,440	23,185	25,051	27,399
経常利益(百万円)	1,615	1,852	1,170	2,011	2,256
当期純利益(百万円)	870	904	488	997	1,306
株主資本(百万円)	7,974	8,927	9,579	10,173	11,805
1株当たり当期純利益(円)	150.93	103.99	55.42	105.21	137.85
1株当たり株主資本(円)	933.01	1,015.73	1,083.77	1,143.32	1,281.93



注) 第48期(平成12年3月期)におきまして、株式の分割並びに新株発行を実施しております。

Question.1 増配の予定を発表されましたが。

会社経営においては、安定収益を確保し、継続的に成長を図ることで株主の皆様への投資価値の向上を図ることが、何より重要なことと考えております。

配当政策に関しては、配当性向20%をめどとして実施したいということ、1年前に公表いたしました。52期はお蔭様で増収増益を果たすことができ、さらに公募・売出しにより株主数が大きく増えたこともあり、この方針に沿って、期末の配当金を前期より5円増配し、1株当たり25円とさせていただきたいと考えております。

Question.2 今年度は中間配当や中間期の株主優待も開始されるそうですね。

私どもの主力事業は、自動車部品の中でも、本当に小さなパーツ部品の開発・製造・販売です。最近では話題の携帯電話のヒンジといった製品も一部ありますが、一般にはまだなじみが少ないものがほとんどです。また、株式を公開して、まだ間もありません。

そのため、まだ当社の株をお持ちでない投資家の皆様には積極的なIRとPRを、既に当社株式を保有していただいている株主の皆様には、「オーハシテクニカの株を持って良かった」と思っていたくため、考えられるあらゆる施策を行っていきたくと考えて、中間期にも配当と株主優待を行うことにいたしました。

Question.3 各地での会社説明会も積極的に行われていますが。

会社説明会をはじめとして、IR活動は社長の最大の責務であると考えています。ですから、株式公開後、私は会社説明会にはすべて出席して、自ら経営の考え方、事業概況などをご説明してまいりました。52期中は全国4カ所で企業説明会を開催しましたが、今年度も、引き続き継続していきたくと考えております。エンドレスな仕事ですが、体力が続く限り、頑張りたく思います。

日本を軸とした世界5極相互補完体制を構築し、ソフトとハードの両面においてグローバルな事業の拡大を図っています。



OHASHI TECHNICA UK, LTD. (OTUK)

ヨーロッパ戦略への拠点である OTUK

EU地域において自動車部品、情報通信部品の販売会社として、1999年12月、英国スウィンドンに「OHASHI TECHNICA UK, LTD. (OTUK)」を設立、販売・調達活動(EU圏内・世界最適調達の推進)を展開しています。近い将来EU圏に製造工場の保有を計画中です。



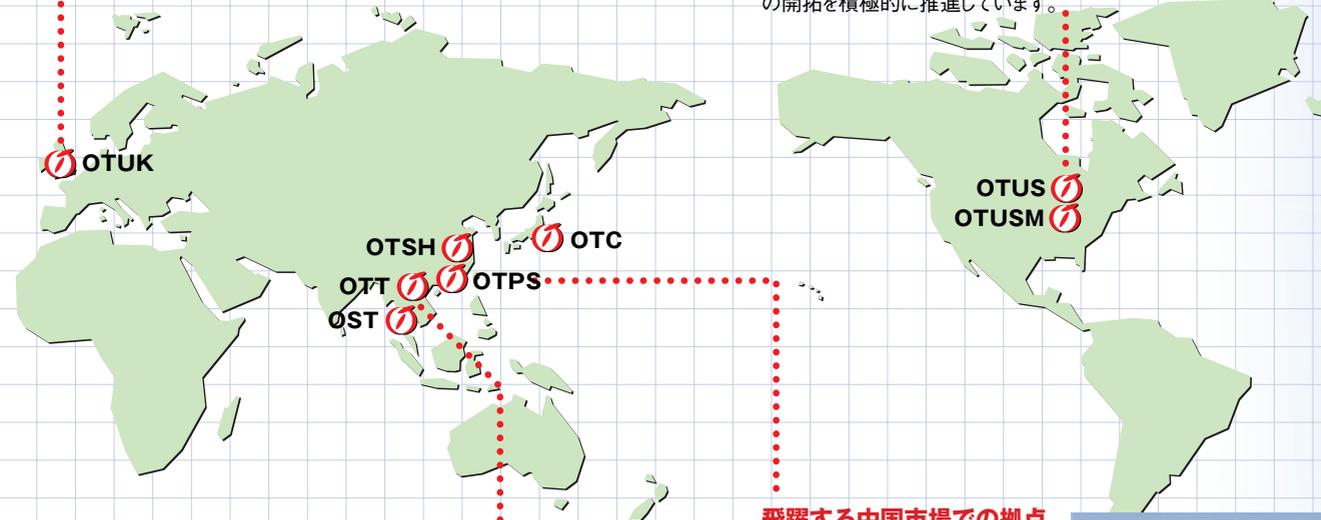
OHASHI TECHNICA U.S.A. INC. (OTUS)



OHASHI TECHNICA MANUFACTURING INC. (OTUSM)

北米の現地生産をバックアップするOTUS/OTUSM

お客様の現地生産をバックアップするために、1987年4月、米国オハイオ州サンバリーに現地法人「OHASHI TECHNICA U.S.A. INC. (OTUS)」を、また1994年、同地に冷間圧造部品を中心とした製造子会社「OHASHI TECHNICA U.S.A. MANUFACTURING INC. (OTUSM)」を設立しました。自動車関連市場、情報通信関連市場を中心に、ユーザーのニーズに的確に応えるとともに、新規ユーザーの開拓を積極的に推進しています。



OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD. (OTT)

アジア戦略への拠点である OTT/OST

アジア地域における自動車部品の製造工場及び販売会社として、1997年1月、タイ国プラチンプリに「OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD. (OTT)」を、また2000年10月同地に「OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD. (OST)」を設立しました。アジア地域ばかりでなく、日本、米国、欧州への部品供給拠点として活動を展開しています。

飛躍する中国市場での拠点 OTSH/OTPS

アジア地域における携帯電話機需要の拡大を見込んで、2002年6月中国(上海市)に情報・通信関連部品の製造・販売子会社「大橋精密電子(上海)有限公司」を、また2003年9月には自動車関連部品の販売子会社「大橋精密件(上海)有限公司」並びに同広州事務所を設立しました。



大橋精密電子(上海)有限公司 (OTSH)

オーハシテクニカの

ニュープロジェクト

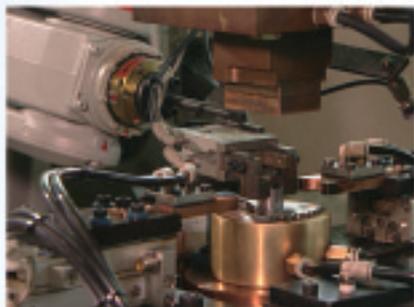
圧入プロジェクト接合法

自動車部品市場では、日々、激しいスピードで技術革新が進んでいます。新しい時代に向けて、「環境」「安全」「低燃費」という3大テーマに沿った開発競争の中で、オーハシテクニカは、今また新たな技術シーズを提供しようとしています。

今回はその中から、「**圧入プロジェクト接合技術**」をご紹介します。

Q1. 「圧入プロジェクト接合法」とは、どのようなものですか？

圧入プロジェクト接合法とは、オーハシテクニカが独自に開発した「固相拡散接合」の技術をいいます。電極間の放電を利用したこれまでのアーク溶接などに比べて、同等の品質を、30%以上も低いコストで実現できるようになりました。



Q2. 「ニュープロジェクト」と呼ぶにふさわしい特徴とは？

自動車部品業界は、ユーザーからのコストダウン要求が強い業界であると同時に、車に乗る人のための厳しい品質管理が要求されています。

自動車は、3万点以上に及ぶユニットとパーツの接合体です。そのため、「異なった材質の部品を接合（溶接）する技術を低コストで達成する」ために、業界最大のテーマの1つとして、激しい開発競争が続けられてきました。

Q3. 「圧入プロジェクト接合法」開発のヒントになったことは？

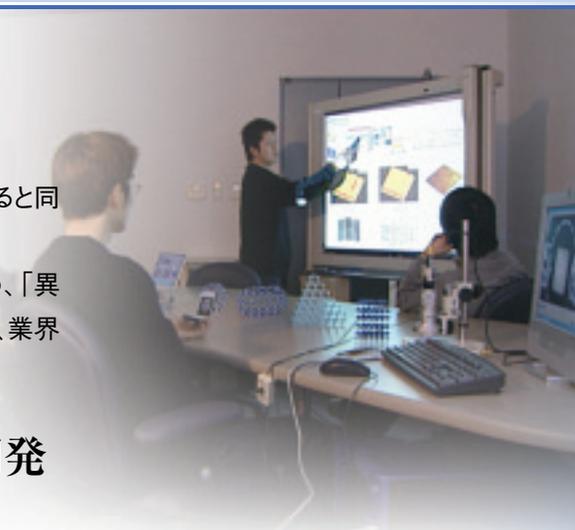
例えば2つの金属などを接着剤によって接合することは、耐久性といった点を除外すればそれほど難しいことはありません。一方、接合部を溶かす溶接法は熱によって材質が激しく変化することから、非常に難しいとされてきました。この課題を解決したことがポイントになりました。

Q4. もっと具体的に話していただけますか？

従来からあった自動車ボディの溶接などに用いる「抵抗溶接法」と「固相拡散接合」を複合的に組み合わせることで両者の長所を活かし、短所を取り除いて作り上げた方法です。

「抵抗溶接法」の長所は低コストであり、「固相拡散接合」の長所は接合部の劣化した合金層を排除し、信頼性を高めることです。当社はこのアイデアを具体化するため、さまざまな試験を繰り返し、およそ3年の歳月をかけて開発に成功しました。

この結果、オーハシテクニカの圧入プロジェクト接合法は、お客様から高い評価をいただけることになりました。



連結財務諸表の要旨

区分	前連結会計年度 平成15年3月31日現在	当連結会計年度 平成16年3月31日現在	区分	前連結会計年度 平成15年3月31日現在	当連結会計年度 平成16年3月31日現在
資産の部					
流動資産	15,443	16,927	負債の部	8,260	8,514
現金及び預金	6,175	6,912	流動負債	7,135	7,434
受取手形及び売掛金	6,724	7,434	支払手形及び買掛金	512	460
たな卸資産	2,225	2,252	未払法人税等	-	8
繰延税金資産	192	225	繰延税金負債	134	180
その他	165	139	賞与引当金	477	430
貸倒引当金	△ 39	△ 37	その他	578	697
固定資産	3,662	4,180	固定負債	-	7
有形固定資産	2,339	2,513	繰延税金負債	395	457
建物及び構築物	1,009	983	退職給付引当金	158	196
機械装置及び運搬具	662	703	役員退職慰労引当金	24	37
工具器具備品	445	416	その他	24	37
土地	165	371	負債合計	8,838	9,212
建設仮勘定	56	38	少数株主持分	94	90
無形固定資産	192	223	資本の部	1,277	1,669
投資その他の資産	1,130	1,443	資本金	1,066	1,455
投資有価証券	274	419	資本剰余金	7,653	8,714
繰延税金資産	214	215	利益剰余金	29	112
その他	652	821	その他有価証券評価差額金	145	△ 146
貸倒引当金	△ 11	△ 12	為替換算調整勘定	△ 0	△ 0
資産合計	19,105	21,107	自己株式	10,173	11,805
			負債、少数株主持分及び資本合計	19,105	21,107

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point1: 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務と売掛債権との回転期間の同期化を進めたことにより、キャッシュ・フローの増加が図られました。

区分	前連結会計年度 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
売上高	25,051	27,399
売上原価	19,081	20,709
売上総利益	5,970	6,689
販売費及び一般管理費	4,086	4,411
営業利益	1,883	2,278
営業外収益	172	71
営業外費用	44	93
経常利益	2,011	2,256
特別利益	-	14
特別損失	146	76
税金等調整前当期純利益	1,864	2,195
法人税、住民税及び事業税	994	958
法人税等調整額	△ 129	△ 73
少数株主利益	1	4
当期純利益	997	1,306

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	3,224	1,027
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 987	△ 871
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 88	591
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 149	△ 10
現金及び現金同等物 の増加額	1,999	737
現金及び現金同等物 の期首残高	4,176	6,175
現金及び現金同等物 当期末残高	6,175	6,912

単体財務諸表の要旨

区分	前期(第51期) 平成15年3月31日現在	当期(第52期) 平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,915	13,800
現金及び預金	4,853	5,638
受取手形	894	876
売掛金	6,009	6,268
商品	903	842
前払費用	17	16
繰延税金資産	96	125
その他	178	70
貸倒引当金	△ 37	△ 39
固定資産	4,235	5,073
有形固定資産	705	642
建物	161	153
構築物	1	1
機械及び装置	192	158
車輛運搬具	4	3
工具器具備品	317	278
土地	20	20
建設仮勘定	6	26
無形固定資産	167	193
投資その他の資産	3,362	4,237
投資有価証券	274	419
関係会社株式	2,062	2,062
関係会社出資金	239	348
関係会社長期貸付金	-	457
繰延税金資産	200	200
その他	597	764
貸倒引当金	△ 11	△ 14
資産合計	17,150	18,873

注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

区分	前期(第51期) 平成15年3月31日現在	当期(第52期) 平成16年3月31日現在
負債の部		
流動負債	7,787	7,729
支払手形	348	191
買掛金	6,607	6,634
未払金	203	215
未払費用	35	52
未払法人税等	464	481
預り金	11	9
前受収益	2	2
賞与引当金	101	140
その他	12	1
固定負債	482	576
退職給付引当金	299	357
役員退職慰労引当金	158	196
預り保証金	24	23
負債合計	8,270	8,306
資本の部		
資本金	1,277	1,669
資本剰余金	1,066	1,455
利益剰余金	6,506	7,329
利益準備金	147	147
任意積立金	5,370	5,920
当期末処分利益	988	1,262
その他有価証券評価差額金	29	112
自己株式	△ 0	△ 0
資本合計	8,880	10,566
負債及び資本合計	17,150	18,873

Point2: 資本金・資本剰余金

平成16年1月に行った公募増資により増加いたしました。

Point3: 営業外収益

海外子会社(OTUS)からの配当金収入です。

区分	前期(第51期) (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	当期(第52期) (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
売上高	21,077	22,540
売上原価	16,768	17,710
売上総利益	4,309	4,829
販売費及び一般管理費	3,090	3,252
営業利益	1,218	1,576
営業外収益	410	270
営業外費用	39	24
経常利益	1,590	1,823
特別利益	-	12
特別損失	150	64
税引前当期純利益	1,439	1,771
法人税、住民税及び事業税	655	789
法人税等調整額	△ 108	△ 86
当期純利益	892	1,068
前期繰越利益	96	194
当期末処分利益	988	1,262

利益処分計算書 (単位:百万円)

区分	前期(第51期) (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	当期(第52期) (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
当期末処分利益	988	1,262
利益処分額	794	1,008
配当金	176	228
役員賞与金	68	80
(うち監査役賞与金)	(2)	(3)
任意積立金	550	700
次期繰越利益	194	253

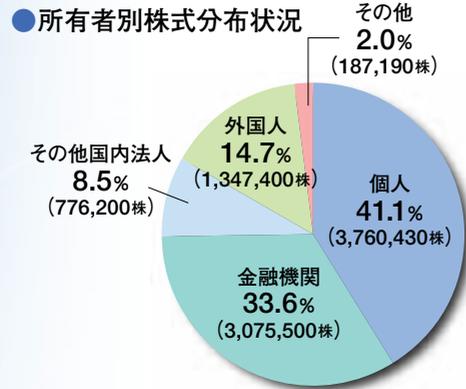
株式の状況 (平成16年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数 **32,000,000株**
- 発行済株式総数 **9,146,720株**
- 資本金 **16億6,955万円**
- 株主数 **3,571名**

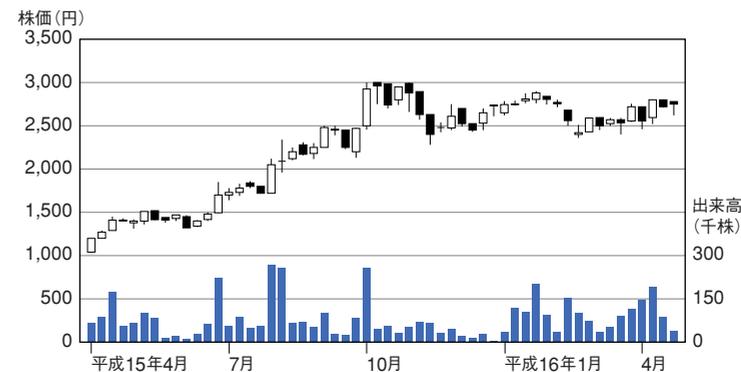
● 大株主

	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行	617,600株	6.75%
株式会社みずほ銀行	440,500株	4.81%
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	387,200株	4.23%
日本生命保険相互会社	380,000株	4.15%
古尾谷 健	346,860株	3.79%
資産管理サービス信託銀行	340,400株	3.72%
日本トラスティサービス信託銀行	315,300株	3.44%
久保 好江	254,890株	2.78%
久保 雅嗣	254,890株	2.78%
阿部 泰三	251,300株	2.74%

● 所有者別株式分布状況



● 株価チャート (平成15年4月7日～平成16年4月末日)



株主優待制度の変更のお知らせ

① 株主優待の内容

年2回の実施とし、毎年3月31日に加えて、9月30日現在の株主および実質株主の皆様に対し、「お米ギフト券」を以下の基準により贈呈いたします。

② 贈呈基準

(旧) 期末のみ		(新) 中間期末及び期末それぞれ	
100株以上	2kg	100株以上	2kg
300株以上	3kg	1,000株以上	3kg
1,000株以上	5kg	5,000株以上	6kg
5,000株以上	10kg	10,000株以上	10kg

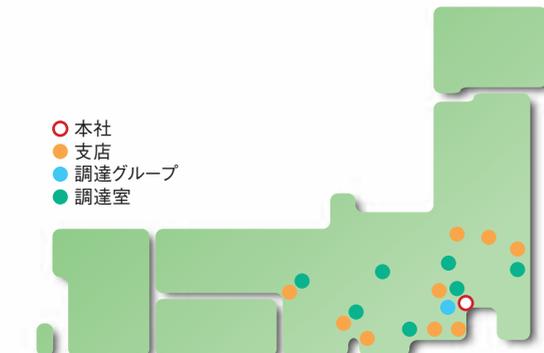
③ 実施時期

平成16年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主より実施いたします。

会社概要

社名 株式会社オーハシテクニカ
OHASHI TECHNICA, INC.
本社 〒163-0921
東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス 21階
創業 1946年(昭和21年)11月
1953年(昭和28年)3月 株式会社に改組
資本金 16億6,955万円(平成16年3月末現在)
従業員数 国内298名、海外284名(子会社を含む)
事業内容 ①自動車、情報・通信を中心とした組立産業の各種製品に使用される要素部品等の企画・設計・開発並びに販売
②海外子会社が販売する部品の国内での調達と輸出貨務

役員
取締役社長 古尾谷 健
取締役 増田 明
取締役 菊地 孝一
取締役 久保田 忠
取締役 青山 清治
取締役 窪田 清
取締役 前川 富義
取締役 堀内 郁夫
常勤監査役 高木 重輝
監査役 土田 一富三
監査役 三好 徹弘
監査役 田口 弘
執行役員 小林 正一郎
執行役員 田中 春次
執行役員 古性 雅人
執行役員 柴崎 衛



国内事業ネットワーク

支店	所在地
日立	茨城県ひたちなか市田彦998-7
栃木	栃木県宇都宮市東宿郷5-1-16 ルーセントビル5階
北関東	群馬県太田市西矢島581-6
立川	東京都福生市熊川987 ヤマガタビル2階
川崎	神奈川県川崎市川崎区藤崎3-5-1 トークピア川崎4階
南関東	神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメゾンヤマキ2階
浜松	静岡県浜松市篠ヶ瀬町502-1
名古屋	愛知県高浜市小池町2-15-10
大阪	大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階
調達グループ	調達技術管理グループ 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
調達室	東京 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階 大阪 大阪府大阪市北区中津1-15-15 中津第2リッチビル5階 名古屋 愛知県高浜市小池町2-15-10 北関東 群馬県太田市西矢島581-6 諏訪 長野県諏訪市沖田町1-96-2 広瀬橋Sビル 南関東 神奈川県伊勢原市田中257-2 ホワイトメゾンヤマキ2階 日立 茨城県ひたちなか市田彦998-7 海外 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
情報通信事業部	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階

海外事業拠点

北米	OHASHI TECHNICA U.S.A., INC. TENNESSEE BRANCH INDIANA SALES OFFICE OHASHI TECHNICA MANUFACTURING INC.
タイ	OHASHI TECHNICA (THAILAND) CO., LTD OHASHI SATO (THAILAND) CO., LTD.
英国	OHASHI TECHNICA UK, LTD. NORTH EAST BRANCH
中国	大橋精密電子(上海)有限公司 大橋精密件(上海)有限公司・広州事務所

国内関係会社

株式会社 オーティーシートライポロジー研究所
東京都新宿区西新宿2-3-1
株式会社 オーティーシーロジスティクス
東京都国立市谷保3999-6